

鶴見線の旅

品川駅から約30分で行ける鶴見

そこには鶴見線という路線がご存知でしょうか。一見ただの路線に見えるが、実はすごくクセが強い路線である。

この路線は京浜工業地帯に向かう路線であり、そちらの工場の従業員しか利用しないのはほとんどです。

しかし、沿線には非日常な光景が沢山あり、今回は2つのスポットを紹介します。



国道駅

【神奈川県】

現役の駅とは思えない
都会の隠れスポット

始発駅鶴見駅の次である国道駅。この駅名の由来は高架下に京浜国道と交点があるためだけです。国道駅は1930年開業で、それ以来は大幅なりフォームはなく、現でもほぼ開業当時のままである。

この駅はエレベーターとエスカレーター、そして多目的トイレなどのバリアフリー設備は一切なく、

トイレの内装も結構が年季が入っているようです。駅の高架下には歩道があり、「臨港デパート」という商店街で、現在はほとんどの店がすでに休業しており、まるで廃墟の空間でした。

そして、商店街の入り口付近に歩くと、廃墟と思われる建物があり、その壁にはなんと第二次世界大戦の機銃掃射の弾痕が未だに残っていて、まるで時が止まったようである。

とはいえ、この商店街の通路は未だに地元住民の生活道路として使用しており、まだまだ現役の状態です。あと、商店街のほとんどの店が営業してないにも関わらず、多くの自販機が稼働のままで、しかもそれらの店舗のスペースを利用したものもありました。



国鉄感マシマシな看板



第二次世界大戦で残った機銃掃射の弾痕



こんなところも自販機が！？



めっちゃヤケクソな駅名…



海芝浦駅

【神奈川県】

一般人が改札から出られない鶴見線の終着駅
それでも綺麗な海景色が見えるスポット

海芝浦駅は、東芝プラントシステムの最寄り駅であり、改札口が会社の出入り口になっており、つまり関係者ではない一般人には立ち入り禁止で、改札から出られない駅になっています。

それでも観光スポットになれる理由は、ホームから海景色が見れるからです。海芝浦駅はただ海景色が見えるだけでなく、ホーム自体が海沿いにあり、電車から降りてすぐ目の前には海景色が見えて、すでに海に一番近いところと言っても過言ではないでしょう。

この駅は改札口から出られないとはいえ、ホームの端っこには「海芝公園」という公園があり、そこは一般人でも入場できる公園です。この公園は東芝が開設したミニ公園で、理由としては、関係者以外の方々のより多くの人にこの海景色を楽しめるように、「海芝公園」を作りました。

一応注意事項としては、この駅はあくまでも東芝の社員が利用する駅であり、そのため電車の本数は少なく、その上に駅から出られないため、もし終電を見逃すと大変なことになるので、行く人にはちゃんと時間を確認し、海芝浦駅の時刻表もちゃんと確認しましょう。





海芝公園についての説明看板



海芝公園内の画像



浅野駅のすきまヤバくない！線路まで見えるけど…



あと、浅野駅の電車とホームのすきまは他の駅に比べても異常の広さであり、電車が止まってる状態でも、ホーム上で斜め見ると線路が見えるくらいでした。行く人は浅野で乗り換える場合は十分に注意しましょう。

話がちょっと変わりますが、鶴見線は多くの駅には、電車とホームの間にすきまが広く空いてる駅が沢山あって、それらの駅には左図のように非常にでかい警告標識がホームの地面に貼っています。なぜわざわざある角度になると、立体感のように見えるというこだわりになるのかすごく気になります。



海芝公園から見た海景色



右側は東芝の会社入り口で、一般の人は左側の海芝公園のみ行けます。

